

## 令和6年度 第2回さいたま市立教育研究所運営委員会会議録

1 開催日時 令和7年1月31日（金）午前10時00分～午前11時15分

2 会場 さいたま市立教育研究所 2階 第二研修室

3 出席者名

<運営委員会委員> ※敬称略

|            |       |
|------------|-------|
| 戸部 秀之（委員長） | 河野 秀樹 |
| 辻 美由紀      | 細井 博幸 |
| 八坂 和典      | 根岸 君和 |
| 入澤 真理香     | 丹 能成  |
| 小林 由美恵     | 高野 千華 |
| 和田 牧子      | 伊藤 真弓 |

<事務局職員>

|            |       |
|------------|-------|
| 所 長        | 津田 顕吾 |
| 所長補佐       | 後藤 正憲 |
| ICT 教育推進係長 | 分須 広樹 |
| 調査研究係長     | 宮脇 謙  |
| 研修係長       | 清水 康雄 |
| ICT 教育推進係  | 片山 賢  |

欠席者名

<運営委員会委員> 田中 邦典 石川 聰 岸 智絵

4 会議の公開 公開

5 傍聴人 0人

6 内容 (1) 令和6年度教育研究所の事業報告について

- ・さいたま市スマートスクールプロジェクト
- ・ICT 教育推進事業
- ・調査研究事業
- ・研修事業

(2) 協議

7 問合せ先 さいたま市立教育研究所

電話 048（838）0781

## 8 協議要旨

●=委員長から ○=委員から

|     |  |
|-----|--|
| 委員長 | ●クラウド及びデータの利活用を要とした「学び方」・「教え方」・「働き方」改革を推進していくための『教職員意識の醸成』について、教育DXを進めていくには、学校文化や教職員の意識を変えていく必要がある。教育研究所からの事業報告について、学校での取組状況等を踏まえつつ、御意見、御感想等いただきたい。まずは、学校現場の委員から。  |
| 委員  | ○教育研究所で多くの取組をしていることが改めて分かった。今後その取組について、学校へ周知していく必要がある。研修に関しては、教職員が主体性をもって、取り組むことが土台となってくる。あらゆる年齢層の教職員が負担感等を感じずに受講できる研修の形態を考えいかなければならない。本校は、スクールダッシュボード等のデータ利活用に関しての校内研修において、苦手意識をもつ教職員もいたため、ルールを決めてスタートし、指導主事や他校の教員とチャットグループでコミュニケーションを取りながら実施できること有効であった。指導主事に伴走支援をしてもらったことは大変良かった。そのような取組を通して意欲的に研修に取り組む風土を醸成することができた。   |
| 委員  | ○年度当初は、本校では端末利用があまり進んでいない印象であったが、「学び方」については、エバンジェリストを中心にExcelを利用した振り返り、Canvaを利用した表現などの活動が高学年、中学年を中心に増えてきた。「教え方」については、どのような場面でICT活用することがより有効かを考え、使い分けができるようになってきた。振り返りの活動を十分に行えていないこと課題。「働き方」については、ICTの操作が得意な教員を中心に試行錯誤しながら取組を進めている。情報共有の際、教職員のセキュリティ意識には課題がある。   |
| 委員  | ○1人1台端末の活用が増えてきている。納得感をもって使えるかどうかが重要。アプリ等が使いやすくなったことにより、使う頻度が増えてきた。KahootやPadletなどのツールの中から授業や校務で活用できそうなツールを校長がさりげなく使ったことにより、教職員が便利さを感じて、活用が進んだ。「教え方」については、教職員一人ひとりが持ち味を出しつつ、教科の特性を生かした指導を行っている。自由進度学習や複線型授業等取り入れる教員も増えてきた。意識の醸成について、教育研究所が示すビジョンが本年度だけでなく、先を見通したゴールが示されていることで、学校で周知がしやすくなった。教育委員会への提出物に関しても期間に余裕をもって設定されるようになり、取り組みやすくなった。アンケートもFormsが活用されることによって、答えやすくなった。結果も活用しやすく、校内でフィードバックしやすい。 |
| 委員長 | ●校長先生がさりげなく使うことで、活用が広がっていくことに感銘を受けた。先生方の意識の醸成につながる。  |

|     |   |
|-----|---|
| 委員  | ○本校では、ICT に対して苦手意識をもつ教員が一定数おり、活用を推進することに課題があつたが、少しづつ広がってきた。「学び方」は、生徒に1人1台与えつつも、どのように使うべきかを学校として整理して、子どもにきちんと伝えるべき。スタディサプリの活用が進んでいないが、子どもがどのように活用することが有効なのかを今後検討していく必要がある。「教え方」については、校長がリーダーシップを発揮しながら進めるべきである。しかし、操作に関して苦手意識をもつ校長もいるので、操作スキルの向上や情報交換のできる、ICT 活用に関する研修を校長会等で設定してほしい。「働き方」については、ICT を活用することで、変わってきてることを実感している。採点ソフトを使う教科もかなり増えている。働き方についても、ICT 活用が根付きつつある。ICT 活用を得意とする教職員は積極的に活用するが、苦手とする教職員にどう活用してもらうかが重要である。操作スキル向上の研修があるとよい。 |
| 委員  | ○教育研究所で様々な取組をしていることに驚いた。システムについて、高校教育課所管と教育研究所所管の違いについての情報共有ができるとよい。OS が違うので全てを取り入れることは難しいかもしれないが、中等、高校にとって効果的な部分を自校で伝えたい。デザイン思考について、教師自らの成長を促す研修を設定することが素晴らしい。データサイエンス、AI の利活用に関する研修があると、業務効率の向上への可能性を感じる。ICT を使うと成績情報、模試の結果を配信しやすくなるが、情報漏洩などの事故につながるリスクもある。そこに対するチェック項目があるとよい。本校では iPad を使っているが、チャンネルが多く、情報が散在することが課題。教員が専門的なスキルを身に付けることも大切だが、変化が早すぎて対応できない。メンテナンス等、外部専門家の力を借りられるとよい。子どもの方が教員よりスキルが高い場合もある。子どもたちの情報モラルの向上をしていく必要がある。        |
| 委員  | ○特別支援学校では、子どもが使うことは難しいが、教職員がどんな場面で活用することが効果的なのかを学ぶことが必要。研修意欲は高まっている。エバンジェリストの働き掛けで ICT 活用を躊躇っていた教員もチャレンジする意欲をもっている。   |
| 委員長 | ●教育委員会の立場からの発言をいただきました。   |
| 委員  | ○教職員の意識を醸成していくには、先生方がよさを実感することと、使うことに慣れることが重要なのは。自然に慣れて、よさを実感できるような仕組みを整えることが必要。校務の中に組み込むことがよいのでは。例えば、校内研修の中で、クラウドやデータを活用したり、プレゼン方式で発表し合ったりするなど。また、具体的に学習指導要領と照らして、ICT 活用を授業に落とし込んでいるかを今後の課題として示す必要がある。これからの中学生たちが身に付けるべき資質能力をしっかり議論して、教職員が腹落ちして子どもへの指導に生かさなければならない。そうすると、情報活用能力の育成やデータの活用が子どもたちに必要であることが分かり、指導に生かされるようになる  |

|     |   |
|-----|---|
|     | と思う。  |
| 委員長 | ●見えないことを腹落ちするのは難しいが、よさを実感し、使い慣れることが重要。  |
| 委員  | ○指導訪問で積極的に ICT やクラウドを活用する場面が多く見られるようになった。各教科で、目指す資質能力の育成につながる活用を考えたい。   |
| 委員  | ○特別支援教育室では、研究ネットワークという取組をしている。各学校における実践発表では、今年度より発表のテーマとして「ICT 活用」という縛りを無くしたが、ICT 活用についての実践発表が多く、教職員の ICT 活用への意識の高まりを感じる。   |
| 委員  | ○ICT を使うことがゴールになっている教員が多い。使うことでメリットがあることを感じなければ使わない。ICT の活用に関して、北風と太陽の太陽になるように、強制するのではなく、活用のメリットが伝わるようにしたい。よさが伝わることで広がると思う。   |
| 委員  | ○養護教諭や栄養教諭のように、学校で一人職の教員は他校と情報を共有しながら仕事を進めている。ICT を使うことも広がっているが、年配者の中ではあきらめてしまう人もいる。その人達にどのように使わせるかが課題。   |
| 委員長 | ●皆の発言を受けて、意見があれば伺いたい。   |
| 委員  | ○自身が受けた研修の中で「研修会で獲得できるスキル、振り返り」を多く取っていた研修がとても有意義だった。研修の中でじっくり振り返ったことで、自校でどんなことを実行できるかを考えることができた。研修のプロセスの中に「実行する」が入るとよいのでは。指導訪問は学校にとってとても大きい。ポートフォリオの充実を求められるが、何のために作るのか、意義を伝える必要がある。                                  |
| 委員  | ○教育委員会の各課所室が指導することについて連携が必要。研究所が所管している Plant やキャリアナビ等を人事評価でどのように使うと教員の意欲向上につながるのか、教職員人事課がメリットを伝えるような取組があるとよい。研究所が所管しているスクールダッシュボードの学習の振り返りについて、教育課程指導課が具体的に授業の組み立て方やカリキュラムの編成につながる活用方法を示し、活用することが効果的であることをきちんと伝えてほしい。 |
| 委員長 | ●今日の発言には、共通している部分が多々あった。意義をしっかりと伝えることや、子どもや先生が成長を実感できるということが大切であることがわかった。まとめることはしないが、各発言を参考にしてほしい。  |